

## 地域検討会議で寄せられた意見の反映状況等

	意見等	反映状況等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校規模によらず、平等公平に高校教育を受けられるようにしていただきたい。</li> <li>小規模校・大規模校それぞれの特性を活かして、子ども中心の教育を推進していくべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校規模の大小に関わらず、各校が特色・魅力ある教育活動を展開することが重要である等とし、望ましい学校規模を設定しない。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するという方針を継続していただきたい。</li> <li>地域に根ざした活動を行っている高校については存続を求める。</li> <li>地方活性化の観点からも、地域に高校があることには大きな意味がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学年 1 学級校の存在が、高校を核とした地方推進に大きな役割を果たしている地域において、所在する自治体等と連携することで教育活動の充実が図られている場合、1 学年 1 学級校の普通高校については「地域校」とし、地域における学びの機会を保障する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域全体で人手不足が深刻化している中、専門学科の充実による人材育成が必要である。</li> <li>専門高校は、地域の基幹産業を支える重要な役割を果たしており、最新設備の導入や学科の最適化な等の環境整備を進めることが重要である。</li> <li>必要な資質・能力を備えるためには、ある程度の規模を有する学校が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業、工業、商業の専門分野の中心的役割を担う専門高校については、学校規模を維持することにより、専門分野の多様な学びの機能を有する職業教育のセンター・スクールとして、教育内容の充実を図る。なお、農業高校は1 学年 4 学級以上、工業高校は1 学年 5 学級以上、商業高校は1 学年 4 学級以上を学校規模の原則とする。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学生確保のため、県の魅力化推進事業との連携を希望する。</li> <li>いわて留学の取組に対し、県教委から市町村に対する支援を実施していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携コーディネーターの配置支援、新たに配置されたコーディネーターの資質向上や地域内外との連携強化の取組等について、国の動向や他県の状況を踏まえ推進する。</li> <li>高校、市町村に対して県外生徒の受け入れ体制の整備等に係る伴走支援を推進する。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門高校において、子ども達が進んで通いたくなるような、特色ある高校づくりを進めて欲しい。</li> <li>地元産業のニーズを満たすための、即戦力となる専門教育が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>盛岡工業高校について、地域振興の方向性や産業構造、中学生の志望動向、高校卒業後の進路状況等を見据え、令和 10 年度に学科の改編を行ったうえで、令和 12 年度を目途に旧盛岡南高校の校舎及び施設等を活用した教育環境の整備をする。</li> <li>黒沢尻工業高校について、地域振興の方向性や産業構造、中学生の志望動向、高校卒業後の進路状況等を見据え、令和 9 年度に既存の 1 学科を半導体関連の学科へ改編する。</li> <li>宮古水産高校については、水産及び調理師養成施設の学びのバランスを考慮して、令和 10 年度に県立高校の水産及び調理師養成施設の学びを集約し、機能の重点化を図る。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合学科高校については、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の産業構造やニーズを踏まえた系列編制や学びの内容となるよう、系列の見直しや学びの在り方等について検討するとともに、総合学科高校の今後の在り方について、前期計画期間中に検証を行い、方向性を検討する。</li> </ul>



## 中部地区の県立高校の状況

### 1 募集学科・在籍生徒数等（令和7年度：全日制）

学校名	募集学科(定員)	募集定員	全校学級数	在籍生徒数	備考
花巻北	普通(240)	240	18	658	
花巻南	普通(4学系：人文科学・自然科学120、スポーツ健康科学40、国際科学40)	200	15	569	
花巻農業	【農業】生物科学(40)、環境科学(40)、食農科学(40)	120	9	239	
花北青雲	【工業】情報工学(40)、【商業】ビジネス情報(80)、【家庭】総合生活(40)	160	12	441	
大迫	普通(40)	40	3	51	
遠野	普通(120)	120	9	294	R5 学級減
遠野緑峰	【農業】生産技術(40)、【商業】情報処理(40)	80	6	95	
黒沢尻北	普通(240)	240	18	639	
北上翔南	総合(160)（4系列：人文、自然、情報、環境）	160	14	416	R7 学級減
黒沢尻工業	【工業】機械(40)、電気(40)、電子(40)、電子機械(40)、土木(40)、材料技術(40)	240	18	418	
西和賀	普通(80)	80	4	136	R7 学級増

### 2 入試の状況

※網掛けは学級減等を表す

学校名	学科	R5				R6				R7			
		定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異
花巻北	普通	240	241	225	▲15	240	248	226	▲14	240	223	217	▲23
花巻南	人文科学・自然科学	120	152	122	2	120	144	121	1	120	113	115	▲5
	スポーツ健康科学	40	52	40	0	40	48	40	0	40	42	40	0
	国際科学	40	31	33	▲7	40	38	40	0	40	24	24	▲16
花巻農業	生物科学	40	31	31	▲9	40	25	24	▲16	40	38	36	▲4
	環境科学	40	18	18	▲22	40	16	15	▲25	40	22	22	▲18
	食農科学	40	33	32	▲8	40	31	31	▲9	40	34	34	▲6
花北青雲	情報工学	40	31	39	▲1	40	34	35	▲5	40	28	28	▲12
	ビジネス情報	80	98	81	1	80	82	75	▲5	80	81	80	0
	総合生活	40	39	39	▲1	40	50	40	0	40	29	29	▲11
大迫	普通	40	27	27	▲13	40	16	16	▲24	40	15	15	▲25
遠野	普通	120	84	83	▲37	120	107	104	▲16	120	113	108	▲12
遠野緑峰	生産技術	40	36	36	▲4	40	26	25	▲15	40	21	21	▲19
	情報処理	40	8	8	▲32	40	5	5	▲35	40	8	8	▲32
黒沢尻北	普通	240	244	226	▲14	240	262	234	▲6	240	205	196	▲44
北上翔南	総合	200	156	154	▲46	200	153	148	▲52	160	127	126	▲34
黒沢尻工業	機械	40	27	25	▲15	40	37	37	▲3	40	29	29	▲11
	電気	40	22	22	▲18	40	29	28	▲12	40	27	25	▲15
	電子	40	22	21	▲19	40	27	27	▲13	40	25	25	▲15
	電子機械	40	31	30	▲10	40	29	29	▲11	40	26	24	▲16
	土木	40	17	17	▲23	40	24	24	▲16	40	13	13	▲27
	材料技術	40	22	22	▲18	40	14	13	▲27	40	13	14	▲26
西和賀	普通	40	31	29	▲11	40	49	44	4	80	69	67	▲13
中部地区計		1,680	1,453	1,360	▲320	1,680	1,494	1,381	▲299	1,680	1,325	1,296	▲384

### 3 市町村の中学校卒業者の推移 (R7.5.1時点)

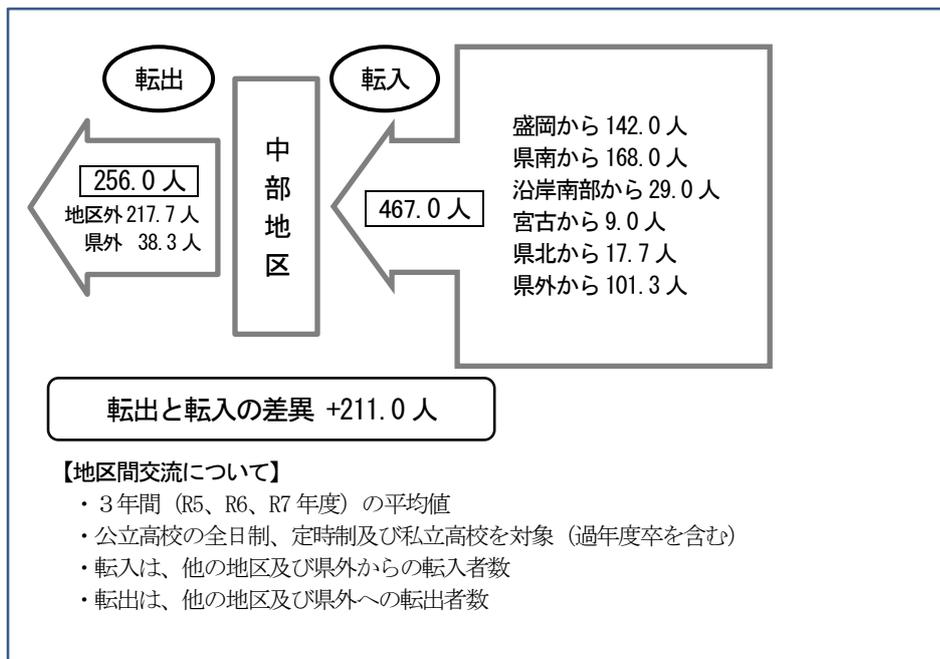
第3期県立高等学校再編計画期間(R8~R17)

※中段：対前年比、下段：対R7年比

	R7年3月	R8年3月	R9年3月	R10年3月	R11年3月	R12年3月	R13年3月	R14年3月	R15年3月	R16年3月	R17年3月	R18年3月	R19年3月	R20年3月	R21年3月
花巻	713	734	688	704	719	691	660	656	686	578	532	513	481	452	397
		21	-46	16	15	-28	-31	-4	30	-108	-46	-19	-32	-29	-55
		21	-25	-9	6	-22	-53	-57	-27	-135	-181	-200	-232	-261	-316
*大迫	15	18	18	21	19	16	17	11	24	12					
		3	0	3	-2	-3	1	-6	13	-12					
		3	3	6	4	1	2	-4	9	-3					
*石鳥谷	82	103	98	90	95	89	80	88	99	77					
		21	-5	-8	5	-6	-9	8	11	-22					
		21	16	8	13	7	-2	6	17	-5					
遠野	186	182	171	181	188	143	157	124	139	138	127	123	111	102	91
		-4	-11	10	7	-45	14	-33	15	-1	-11	-4	-12	-9	-11
		-4	-15	-5	2	-43	-29	-62	-47	-48	-59	-63	-75	-84	-95
花巻地域	899	916	859	885	907	834	817	780	825	716	659	636	592	554	488
		17	-57	26	22	-73	-17	-37	45	-109	-57	-23	-44	-38	-66
計		17	-40	-14	8	-65	-82	-119	-74	-183	-240	-263	-307	-345	-411
北上	819	804	774	764	793	768	731	739	682	649	637	564	540	515	496
		-15	-30	-10	29	-25	-37	8	-57	-33	-12	-73	-24	-25	-19
		-15	-45	-55	-26	-51	-88	-80	-137	-170	-182	-255	-279	-304	-323
西和賀	32	30	21	17	21	24	25	21	17	15	17	15	15	12	7
		-2	-9	-4	4	3	1	-4	-4	-2	2	-2	0	-3	-5
		-2	-11	-15	-11	-8	-7	-11	-15	-17	-15	-17	-17	-20	-25
北上地域	851	834	795	781	814	792	756	760	699	664	654	579	555	527	503
		-17	-39	-14	33	-22	-36	4	-61	-35	-10	-75	-24	-28	-24
計		-17	-56	-70	-37	-59	-95	-91	-152	-187	-197	-272	-296	-324	-348
中部	1,750	1,750	1,654	1,666	1,721	1,626	1,573	1,540	1,524	1,380	1,313	1,215	1,147	1,081	991
		0	-96	12	55	-95	-53	-33	-16	-144	-67	-98	-68	-66	-90
地区計		0	-96	-84	-29	-124	-177	-210	-226	-370	-437	-535	-603	-669	-759

\* 合併前の旧市町村名(内数)

### 4 地区間交流の状況 (3年間の平均)



5 入学者の推計 (R7.5.1時点)

第3期県立高等学校再編計画期間(R8~R17)

学校	学級数	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21
花巻北	6	217	216	206	209	214	207	197	195	199	178	163	154	147	138	122
花巻南	5	179	186	176	176	182	174	168	164	165	148	139	131	124	116	104
花巻農	3	92	78	73	74	77	73	70	68	71	61	58	55	52	49	43
花北青	4	137	146	139	139	143	138	131	130	134	119	110	105	100	93	82
大迫	1	15	15	14	15	15	14	14	13	15	12	11	11	10	9	8
		参考値	19	18	18	18	18	17	16	18	15	14	14	13	13	11
遠野	3	108	90	85	88	90	73	78	65	75	68	63	60	55	51	46
		参考値	93	89	92	94	77	82	69	78	71	66	64	59	54	49
遠野緑	2	29	32	31	33	33	26	28	23	27	25	23	22	20	18	17
		参考値	32	31	33	33	26	28	23	27	25	23	22	20	18	17
黒北	6	196	210	202	198	206	199	191	191	178	168	164	147	141	134	126
		参考値	210	202	198	206	199	191	191	178	168	164	147	141	134	126
北上翔	4	126	136	133	129	132	130	126	126	116	112	108	98	93	89	84
		参考値	136	133	129	132	130	126	126	116	112	108	98	93	89	84
黒工	6	130	135	130	128	132	127	123	121	117	109	104	96	91	86	79
		参考値	136	130	128	133	128	123	122	118	109	104	96	92	87	80
西和賀	2	67	38	34	32	35	35	34	33	29	27	28	25	24	22	19
		参考値	42	38	36	39	39	38	36	33	31	31	28	27	25	23
計	42	1,296	1,282	1,223	1,221	1,259	1,196	1,160	1,129	1,126	1,027	971	904	857	805	730
必要学級		33	33	31	31	32	30	29	29	29	26	25	23	22	21	19
参考値計			1,294	1,235	1,232	1,271	1,209	1,171	1,140	1,137	1,037	980	914	868	816	741
参考値必要学級数			33	31	31	32	31	30	29	29	26	25	23	22	21	19

【入学者推計について】

- ・ R 7は実績値（入学者数は、合格者数と異なることがある）
- ・ 過去3年間の入学実績、及び中学校卒業予定者数推移に基づいて算出したもの
- ・ 網掛けはR 7年度募集定員より40名以上の欠員又は20名以下の見込みを示す
- ・ 「参考値」は県境隣接協定及びいわて留学における他県からの入学生の推計を加えた値



## 令和7年度の入試状況について（県立高校全日制）

年 度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
中 学 校 卒 業 者 数	10,677	10,092	10,396	10,077	9,954	9,675
募 集 定 員	8,960	8,960	8,920	8,720	8,680	8,520
総志願者数	8,197	7,670	7,969	7,601	7,483	6,897
合 格 者 数	7,491	7,194	7,219	6,910	6,804	6,531
欠 員	▲1,469	▲1,766	▲1,701	▲1,810	▲1,876	▲1,989
調整後志願倍率	0.87	0.82	0.85	0.82	0.80	0.80

令和7年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等（全日制）

地区	学校名	大学科	学科・学系・コース	募集定員	合格者数	過不足数	総志願者数	
盛岡	盛岡第一	普通・理数	普通・理数	280	287	▲7	331	
	盛岡第二	普通	普通	200	195	▲5	196	
	盛岡第三	普通	普通	280	286	▲6	324	
	盛岡第四	普通	普通	240	246	▲6	298	
	盛岡北	普通	普通	200	200	0	241	
	南昌みらい	普通	文理	160	161	▲1	184	
		普通	芸術	40	34	▲6	34	
		普通	外国語	40	36	▲4	34	
	盛岡農業	普通	スポーツ科学	80	80	0	93	
		農業	動物科学	40	35	▲5	35	
		農業	植物科学	40	13	▲27	12	
	盛岡工業	農業	食品科学	40	42	▲2	51	
		農業	人間科学	40	35	▲5	28	
		農業	環境科学	40	18	▲22	18	
		工業	機械	40	37	▲3	39	
		工業	電気	40	40	0	40	
		工業	電子情報	40	40	0	44	
		工業	電子機械	40	38	▲2	39	
		工業	工業化学	40	11	▲29	8	
		工業	土木	40	36	▲4	37	
		工業	建築・デザイン	40	40	0	42	
	盛岡商業	商業	流通ビジネス	80	82	▲2	97	
		商業	会計ビジネス	80	82	▲2	91	
		商業	情報ビジネス	80	82	▲2	98	
	沼宮内	普通	普通	40	21	▲19	22	
	葛巻	普通	普通	80	42	▲38	42	
	平舘	普通	普通	40	16	▲24	16	
	雫石	家庭	家政科学	40	3	▲37	3	
		普通	普通	40	39	▲1	41	
	14	紫波総合	総合	総合	120	86	▲34	88
	中部	花巻北	普通	普通	240	217	▲23	223
		花巻南	普通	人文科学・自然科学	120	115	▲5	113
			普通	スポーツ健康科学	40	40	0	42
		花巻農業	普通	国際科学	40	24	▲16	24
			農業	生物科学	40	36	▲4	38
			農業	環境科学	40	22	▲18	22
		花北青雲	農業	食農科学	40	34	▲6	34
			工業	情報工学	40	28	▲12	28
			商業	ビジネス情報	80	80	0	81
		家庭	総合生活	40	29	▲11	29	
		大迫	普通	普通	40	15	▲25	15
		遠野	普通	普通	120	108	▲12	113
遠野緑峰		農業	生産技術	40	21	▲19	21	
商業		情報処理	40	8	▲32	8		
黒沢尻北		普通	普通	240	196	▲44	205	
北上翔南		総合	総合	160	126	▲34	127	
黒沢尻工業		工業	機械	40	29	▲11	29	
	工業	電気	40	25	▲15	27		
	工業	電子	40	25	▲15	25		
	工業	電子機械	40	24	▲16	26		
	工業	土木	40	13	▲27	13		
	工業	材料技術	40	14	▲26	13		
	普通	普通	80	67	▲13	69		
11	西和賀	普通	普通	80	67	▲13	69	
県南	水沢	普通・理数	普通・理数	240	232	▲8	242	
	水沢農業	農業	農業科学	40	18	▲22	19	
		農業	食品科学科	40	12	▲28	13	
	水沢工業	工業	機械	40	21	▲19	22	
		工業	電気	40	20	▲20	20	
		工業	設備システム	40	30	▲10	30	
		工業	インテリア	40	17	▲23	17	
	水沢商業	商業	商業	40	28	▲12	27	
		商業	会計ビジネス	40	24	▲16	23	
		商業	情報システム	40	40	0	44	
	前沢	普通	普通	40	32	▲8	33	
	金ヶ崎	普通	普通	80	20	▲60	20	
	岩谷堂	総合	総合	120	81	▲39	81	
	一関第一	普通・理数	普通・理数	200	200	0	213	
	一関第二	総合	総合	200	202	▲2	217	
	一関工業	工業	電気電子	40	38	▲2	41	
		工業	電子機械	40	40	0	43	
		工業	土木	40	19	▲21	22	
	花泉	普通	普通	40	40	0	41	
	大東	普通	普通	80	27	▲53	27	
商業		情報ビジネス	40	3	▲37	3		
千厩	普通	普通	120	78	▲42	80		
	農業	生産技術	40	28	▲12	30		
	工業	産業技術	40	34	▲6	34		

地区	学校名	大学科	学科・学系・コース	募集定員	合格者数	過不足数	総志願者数
沿岸南部	高田	普通	普通	120	115	▲5	115
	大船渡	水産	海洋システム	40	11	▲29	11
		普通	普通	160	135	▲25	140
	大船渡東	農業	農芸科学	40	12	▲28	12
		工業	機械電気科	40	22	▲18	22
		商業	情報処理	40	20	▲20	20
	住田	家庭	食物文化	40	24	▲16	24
		普通	普通	40	24	▲16	24
	釜石	普通・理数	普通・理数	160	145	▲15	147
	釜石商工	工業	機械	40	27	▲13	27
工業		電気電子	40	12	▲28	12	
7	大槌	商業	総合情報	40	16	▲24	16
	山田	普通	普通	80	58	▲22	58
		普通	普通	40	18	▲22	18
	宮古	普通	普通	200	151	▲49	153
	宮古北	普通	普通	40	21	▲19	21
	宮古商工	工業	機械システム	40	16	▲24	16
		工業	電気システム	40	11	▲29	11
		商業	総合ビジネス	40	35	▲5	35
		商業	流通ビジネス	40	34	▲6	36
	宮古水産	商業	情報ビジネス	40	39	▲1	39
水産		海洋生産	40	9	▲31	7	
6	岩泉	家庭	食物	40	22	▲18	25
	普通	普通	80	41	▲39	41	
	久慈	普通	普通	160	137	▲23	137
	久慈翔北	工業	工業	40	15	▲25	15
		総合	総合	200	124	▲76	124
	種市	普通	普通	40	10	▲30	11
		工業	海洋開発	40	11	▲29	11
	大野	普通	普通	40	13	▲27	13
	軽米	普通	普通	80	31	▲49	31
	伊保内	普通	普通	40	23	▲17	24
福岡	普通	普通	160	82	▲78	83	
	工業	機械システム	40	23	▲17	23	
	工業	電気情報システム	40	14	▲26	14	
8	北桜	総合	総合	120	87	▲33	88

計 59 113学科（学系）

8,520 6,531 ▲1,989 6,897

※参考<市立>

学校名	大学科	学科・学系・コース	募集定員	合格者数	過不足数	総志願者数
盛岡市立	普通	特別進学コース	35	38	3	43
	普通	普通	160	164	4	194
	商業	商業	80	82	2	96
計 1			275	284	9	333

## 今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回） 開催結果

### 1 実施時期

令和7年5月20日（火）～6月5日（木）の間（実施日は4 実施状況参照）

### 2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

### 3 第1回会議内容

- (1) 「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」についての概要説明
- (2) 地域の高校に関する状況等の説明
- (3) 各地区における高校及び学科の配置の在り方等についての意見交換

### 4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者(報道)	地区計
盛岡 (盛岡①)	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 5月20日	岩手県水産会館	20	9	16	7	52
盛岡 (盛岡②)	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 5月27日	岩手県公会堂	19	4	5	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 5月23日	花巻市定住交流センター	20	7	12	19	58
県南	奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市	令和7年 5月28日	奥州市役所 江刺総合支所	20	9	11	15	55
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 6月4日	三陸公民館	22	1	9	8	40
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 6月5日	宮古地区 合同庁舎	19	2	7	18	46
県北 (県北①)	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 5月26日	久慈地区 合同庁舎	16	2	5	9	32
県北 (県北②)	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 5月23日	二戸地区 合同庁舎	18	2	5	11	36
計				154	36	70	94	354



## 地域検討会議（第1回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和7年 5月20日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国の就学支援金の所得制限撤廃により、進学費用の面でハードルが下がり、中学生が私立高校に進学しやすい状況になることが予想される。少子化に伴い、生徒数の減少が進む中、私立高校との共存や定員調整についての慎重な議論が必要になると感じている。</li> <li>・ 中学生の進路の選択肢を閉ざさぬよう、今後、1学級校の在り方については、柔軟な対応が大切である。また、盛岡市一極集中を是正する募集定員の調整や、私立高校と募集人数の調整等の検討も必要である。</li> <li>・ 高校には、地元の産業ニーズに応じた人材育成を進めて欲しいと感じており、地元根付いた産業の専門コースを設置することもよいのではないかと。</li> <li>・ 充実した高校生活を保障するためには、高校の適切な規模を維持する必要があると感じている。県立高校再編計画の策定の際にはその点も踏まえて慎重に検討していただきたい。</li> <li>・ 地域課題の解決に向け、知事部局や産業界と協力し、人材育成をより戦略的に進めるべきだと考えている。その際に、専門高校の担う役割は非常に重要である。</li> </ul>
盛岡② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和7年 5月27日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現計画において1学級校の入学者数が2年連続で20人以下の場合は原則として統合とされている一方、1学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するということが記載されている。次期県立高校再編計画においても、この方針を継続していただきたい。</li> <li>・ 今後、生徒数が減少する中、生徒が自分の将来に向けて多様な学びを選択できる環境や、県内各地域の特色を生かした学びの環境を引き続き作っていただきたい。</li> <li>・ 今後の教育政策を考えたときに、公立と私立の共存に踏み込まなければ、根本的な問題解決にはならないのではないかと。</li> <li>・ 地域産業の伝承や人材育成に向けた学びを充実させるため、専門高校の教育内容を地域産業と連携させ、専門分野に特化した学びの場を作る等、専門高校を差別化、個別化していくことが必要ではないかと。</li> <li>・ 国の制度として総合学科が設立されて約20年が経過したところであり、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかと。</li> </ul>
中部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和7年 5月23日(金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学部進学に関しては、県内志願者の学力の課題が指摘されており、中高一貫教育等を通じた学力向上が不可欠であると考えます。</li> <li>・ 黒沢尻工業高校のように、半導体などの最先端分野に対応した独自のカリキュラムを導入する学校の取組を評価し、今後は志願者増と理工系人材の育成に繋がるよう専門学科の魅力化及び充実を求めたい。</li> <li>・ 専門高校において、子どもたちが進んで通いたくなるような、特色ある高校づくりを進めて欲しい。</li> <li>・ 少子化に伴い定員割れが常態化する中で、受検に対する緊張感やモチベーションが薄れている。定員の見直しや競争率の適正化によって学習意欲を高める工夫が必要ではないかと。</li> <li>・ 各学校が独自性を持ち、ブランド化していくことが求められる。地元教育委員会としても小中学校と連携し、地域全体で教育の質を高める取組を進めたい。</li> <li>・ 不登校・不適應の生徒の進路確保が課題であり、小規模校による温かい対応や学びの多様性へのニーズが高まっている。チャレンジスクールの公立での拡充が望まれている。</li> </ul>

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県南 (奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市)</p>	<p>令和7年 5月28日(水) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私立高校への進学率が15.7%に達しており、授業料無償化や魅力向上策によって公立高校からの流出が懸念される。今後は、人口減少と公立高校への進学者数減少の影響を踏まえた公立高校の戦略的対応が求められる。</li> <li>・ 農業、工業、商業などの専門高校は、地域の基幹産業を支えるために重要な役割を果たしている。最新設備の導入や学科の最適化などを通じ、地域産業の人材育成に貢献できる環境整備を進めることが重要である。</li> <li>・ 今後、高校を再編する場合は、生徒の学びを保障するために、学びの地域バランスに配慮しながら進めていただきたい。</li> <li>・ 人口減少と少子化の影響を受け、中学生の進路選択の多様性を確保するために、県立高校の再編を6地区の広域化で検討する必要性を認識している。</li> <li>・ 生徒やその保護者の希望する学びと地元自治体が希望する学びが一致しておらず、乖離が見られる。また、農業や工業等を専門的に学んでも、地元就職するとは限らず、県外就職の割合も多くなっている。専門教育の在り方の再考、カリキュラムの再編が必要ではないかと感じている。</li> </ul>
<p>沿岸南部 (大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)</p>	<p>令和7年 6月4日(水) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師となる人材を地域で育成していくという観点から、医学部進学コース等を設置し、医療人材育成にも取り組んでいただきたい。</li> <li>・ 1学級校もできる限り維持するという後期計画の考え方について、次期再編計画でも踏襲していただきたい。</li> <li>・ 少子化等の影響を考えると、県立高校の再編は絶対に必要だと考えるが、単に人数により統合するのではなく、ビジョンを持った統合としてもらいたい。</li> <li>・ 地域みらい留学や地域連携コーディネーターの導入は学校の活性化に有効だと考える。学校の運営を教員だけに任せず、自治体と連携した支援が重要である。</li> <li>・ 中学校の不登校生徒の増加に伴い、定時制、通信制高校の選択肢を拡充すべき。また、沿岸地域に定時制と通信制併設校を設置し、生徒の選択肢を増やすことが必要ではないか。</li> </ul>
<p>宮古 (宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<p>令和7年 6月5日(木) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域から高校が無くなることは、保護者の通学負担増や町外流出等の問題を抱えることになる。東日本大震災の被災による人口減少が大きい地域については、他の人口減少地域と同一視して再編を進めないように留意していただきたい。</li> <li>・ 学区は盛岡地区への一極集中を防ぐために設定されているものと理解していたが、盛岡地区でも生徒数減少が進む中、学区制の撤廃により県内全域で自由に進学できる仕組みを検討するべきではないか。</li> <li>・ 高校教育の在り方を考える際には、地域の産業に適した学科配置となるよう検討していただきたい。</li> <li>・ 専門高校の魅力を感じる機会がないまま普通高校への進学が一般化しているのではないかと。地元に残りたい生徒のためにも、工業、商業高校の価値を高め、進学の選択肢として魅力を持たせるべきである。</li> <li>・ 定時制、通信制高校について、今後、多部制や単位制のニーズが増えてくると予想される中、沿岸地区にも多部制、単位制の定時制高校が必要なのではないかと。</li> <li>・ 小規模校、大規模校それぞれの特性を活かし、子ども中心の教育を推進していくべきである。</li> </ul>
<p>県北① (久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<p>令和7年 5月26日(月) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東北本線沿いと違い、盛岡の学校に簡単に通えるという状況ではないことから、子どもたちの学習機会を確保する必要がある。</li> <li>・ 中学校卒業生について、5年後には今年度と比較して85%、10年後には60%を切るということを考えれば、普通科については集約していく必要がある。一方で、久慈地区の産業に合わせたアパレル関係、工業土木関係、水産関係といった学科の存続は必要だと考える。</li> <li>・ 少子化が進む中で、学校規模によらず、平等公平に高校教育を受けられるようにしてもらいたい。</li> <li>・ 定数を35人にすれば財政負担が生じると思うが、ドイツやアメリカのように30人程度にしていかなければ、将来、危機的状況になることを危惧している。</li> </ul>

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県北② (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>令和7年 5月23日(金) 14:30～16:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学級の定員を40人から35人に出来ないか、検討していただきたい。</li> <li>・ どうすれば地元の中学生在が地元の高校に進学するのかを考えたときに、学習面で差が出ないように施策が必要なのではないか。</li> <li>・ 各地域に高校を1校は維持した上で、地域の生徒が地元の高校を選ぶために、地元の高校の魅力を発信していただきたい。</li> <li>・ 遠隔教育を小規模校に限らず進めることで、科目開設の幅が広がるのではないかと。また、教員の複数校勤務、きめ細やかな指導の導入を検討すべきではないか。</li> <li>・ 医師確保やIT人材の育成も重要であるが、小規模校で行われている、一人一人に寄り添った教育も重要であり、そのような学校を必要としている生徒も増加している。</li> <li>・ 小規模校だからこそ遠隔教育においても教員の丁寧なフォローがあるとか、学校間連携を可能にするとか、教育条件の改善を早急に進める必要がある。</li> <li>・ 高校の授業料無償化や併願制の導入により小規模校の存続が厳しくなる。入学者数が2年連続20人以下となった場合、募集停止となる基準の適用については、より慎重に検討していただきたい。</li> </ul>



## 今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回）（中部地区） 意見交換の記録（要旨）

【花巻市、北上市、遠野市、西和賀町】

令和7年5月23日（金）

花巻市定住交流センターなはんプラザ COMZ ホール

### 上田 東一 花巻市長

- ・ 中部地区では他地域からの生徒流入や私立高校への入学者が多いが、それだけ地域に魅力がある証と受け止め、学級数の維持などを通じて地域の高校を守っていただきたい。
- ・ 医科学の専門コースについては、理数科との違いが不明確であり、新設の必要性や目的についての説明が求められる。
- ・ 医学部進学に関しては、県内志願者の学力の課題が指摘されており、中高一貫教育等を通じた学力向上が不可欠であると考えます。
- ・ ブロックと学区の関係が分かりづらいため、制度の構造について明確な説明をお願いしたい。
- ・ 大迫高校については志願者が少ないものの地域に必要な学校であり、小規模校全体のバランスを考慮して存続を検討していただきたい。

### 八重樫 浩文 北上市長

- ・ 北上翔南高校は、総合学科の中で農業系列を維持できたことについて評価している。
- ・ 当管内では全業種で人手不足が深刻であり、特に製造業においては専門学科・系列の存在が非常に重要である。
- ・ 黒沢尻工業高校のように、半導体などの最先端分野に対応した独自のカリキュラムを導入する学校の取組を評価し、今後は志願者増と理工系人材の育成に繋がるよう専門学科の魅力化及び充実を求めたい。
- ・ 国の理工系人材育成戦略の流れも踏まえ、高校段階から文理のバランスを意識した教育体制の整備を進めて欲しい。

### 多田 一彦 遠野市長

- ・ 教育の根本は子どもたちにとってどうあるべきかであり、県と地域と一緒に学校の在り方を考えていく必要がある。
- ・ 遠野市内の高校は特色ある教育を展開しており、特に遠野緑峰高校は人数こそ少ないものの、地域と密着した教育により生徒の成長を実感している。
- ・ 総合学科高校や中高一貫教育に非常に魅力を感じている。
- ・ 議論に時間をかけすぎず、地域事情に配慮しつつできるだけ核心に迫った議論を進めるべきである。

### 内記 和彦 西和賀町長

- ・ 令和7年度の定員増に関して配慮を頂き大変感謝している。
- ・ 高校の魅力化は地域の魅力化に繋がっていると実感しており、今後も地域との連携を重視した支援をお願いしたい。
- ・ 定員増に伴う教職員の配置について、現場の負担が大きくなっていることに配慮し、より一層のお力添えを頂きたい。

### **佐藤 良介 花巻商工会議所 副会頭**

- ・ 人口減少や少子化が進む中で、地域を担う人材の育成において高校教育の重要性が増している。教育の機会の保障と質の保証の観点から今後の高校の在り方を検討して欲しい。
- ・ 花巻地区の高校は、地域の伝統や特色を生かした特色化・魅力化に取り組んでおり、探究学習や地域連携、ボランティア活動などが推進されていることを心強く感じられる。
- ・ 大迫高校では郷土芸能やブドウづくりなど地域との関わりが深い。地域に根差した活動を行っている高校については存続を強く求める。
- ・ 地域全体で人手不足が深刻化している中、専門学科の充実による人材育成の強化が必要である。また、普通高校への単位制導入に関して、より詳しい説明をお願いしたい。

### **新淵 伸彦 農事組合法人リアル 代表理事**

- ・ 花巻地区では、盛岡地区への進学希望者が多く、地域の高校の魅力向上が求められている。
- ・ 専門高校において、子どもたちが進んで通いたくなるような、特色ある高校づくりを進めて欲しい。
- ・ 盛岡地区の高校へ進学後、大学に進学し地元に戻らない生徒も多いため、「学校が楽しかった」という思い出が残るような教育環境が必要とされている。
- ・ 農業は今後も重要な産業であり続けることから、農業高校について、より一層の支援をお願いしたい。

### **今野 好孝 北上商工会議所 理事専務**

- ・ 西和賀高校の定員増となった背景や要因は、他校においても参考となり学ぶべき事例である。県や西和賀町の取組による相乗効果を分析し、今後の施策に生かしてほしい。
- ・ 地区割の見直しにより通学エリアが広がる中、特に遠野市の編入に伴う交通手段が生徒にとって実際に利用可能で持続可能なものか懸念がある。また、地区間交流の実態が把握しづらく、私立高校を含んだ数値では公立高校の動向が見えにくいため、実態を正確に捉える分析が必要ではないか。
- ・ 人材育成の観点から、工業高校の魅力化と通学エリアの柔軟な設定が重要だと感じる。工業クラブ関係者からも工業高校の充実を求める声がある。

### **桶田 陽子 農事組合法人宮守川上流生産組合 代表理事組合長**

- ・ 地域資源を活かした6次産業化に取り組んでおり、地元の遠野緑峰高校と連携して加工指導や商品化などを行っている。
- ・ 高校で地域連携を経験した卒業生が、その経験をきっかけに、地元の法人で即戦力として働いており、高校での経験が地域資源を活かした仕事への関心や定着に結びついている。
- ・ 高校の再編は避けられない課題であるものの、小規模校だからこそ地域と密接に連携し、魅力ある教育や地域づくりが可能であり、地域の魅力を掘り起こせる人材育成を進めて欲しい。

### **阿部 真奈美 早池峰興業株式会社 役員**

- ・ 私立高校や県外からの進学、県外への流出も含めたデータを示していただけると、県立高校との比較や地域の実態把握に役立つ。
- ・ 遠野地域の高校は地域に根ざした活動を通じて地域を元気にしており、進学者数だけでなく生徒の地域貢献などの内容も考慮して高校の在り方を検討していただきたい。

### **酒本 涼子 サロン・ド・愛**

- ・ 西和賀高校が1学年2学級となったことに深く感謝しており、町を残したいという強い思いのもと、高齢化が進む中でも町民が一体となって子どもたちを支えてきた成果であると捉えている。
- ・ 多様な背景を持つ他県からの生徒を受け入れる中で、今後は地域としても学びながら共に成長していく必要があり、1学年2学級体制は新たなスタートである。
- ・ 私立高校の授業料無償化の影響で県立高校の選択肢が弱まる懸念がある。通学手段としての JR 線の維持や、今後も町民が学校支援に熱意を持ち続けられるかが課題であると考えている。

### **鎌田 優見 花巻市PTA連合会 会長**

- ・ 高校の魅力が子どもたちに十分伝わっていない現状を踏まえ、中高連携や体験学習、小中高が一体となった取組を進めることで、地域内の学校への親しみや理解を深め、盛岡地区や県外への進学を抑えて地域への定着に繋げることが重要である。
- ・ 少子化に伴い定員割れが常態化する中で、受験に対する緊張感やモチベーションが薄れている。定員の見直しや競争率の適正化によって学習意欲を高める工夫が必要ではないか。

### **北川 祥樹 遠野市PTA連合会 会長**

- ・ 遠野市が中部地区に編入された意図が不明であり、区域変更による進学傾向や定員枠への影響が懸念される。通学圏の実態に地区割が合致していない可能性がある。
- ・ 私立高校は特色ある活動（ダンス、女子野球など）や受け皿の広さで魅力が高く、目的意識をもって選ばれている。一方、県立高校にそのような魅力や競争力があるのか疑問が残る。
- ・ 黒沢尻工業高校の半導体教育なども魅力はあるが、情報発信力が弱く、十分に認知されていないため、より効果的な広報が必要である。
- ・ 小中学校段階から郷土学習を強化し、子どもたちに「地域での楽しい記憶」を残すことで、将来のUターンや地域定着につながる可能性がある。
- ・ 農業体験学習の田植えについては、現代の農業実態に即し、「大変さ」だけが伝わらないよう、楽しさややりがいも感じられる内容への見直しが必要ではないか。

### **小林 武史 西和賀町立湯田中学校PTA 会長**

- ・ 西和賀高等学校の1学級増は、町や同窓会の取り組みの成果として感謝している。今後は中学卒業生が20人前後の推移の中で高校の存続を実現するため、継続的な支援と工夫が必要である。
- ・ 高校の魅力化だけでなく、特色化にも注力し、地域内外から生徒を呼び込める高校にするため、PTA・同窓会も積極的に支えていきたい。

### **佐藤 勝 花巻市教育委員会 教育長**

- ・ 今回の長期ビジョンに花巻市の意見が反映されたことに感謝している。国の中央教育審議会特別部会で検討されている高校のグランドデザインの観点が基本方針に盛り込まれている点を高く評価し、これを第3期県立高校再編計画のスタートと捉えている。
- ・ 中央教育審議会の4つの観点のうち、特に多様性への対応がこれまでの計画と異なっている。急激な少子化の中で、地域やまちづくりの実態を踏まえ、制度の在り方を柔軟かつ丁寧に設計する必要がある。
- ・ 各学校が独自性を持ち、ブランド化していくことが求められる。地元教育委員会としても小中学校と連携し、地域全体で教育の質を高める取組を進めたい。
- ・ 学びの枠を超えて、産業界と連携した教育、文理横断的なカリキュラムを取り入れた教育の必要性がある。時代の変化に合わせた発想の転換と強い実行力が求められる。
- ・ 岩手県の教育課題は「学力向上」と「不登校や不適応の子どもたちへの学びの保障」である。単

位制導入に加え、難関大学進学を可能にする制度設計や、特に中部地区での中高一貫（施設一体型）教育の整備が必要である。

- ・ 通信制、定時制だけに頼らず、公立全日制の中で不登校傾向の生徒も受け入れられる特例校・特認校の設置を検討すべき。大迫高校のような小規模校の実践を参考にしながら、多様な生徒に学びと自立の機会を保障する教育制度を構築すべき。

#### **船田 浩 北上市教育委員会 教育長**

- ・ 黒沢尻工業高校の半導体科目新設は、「何が学べるか」を具体的に示す取組であり、生徒にとって最も健全で根源的な進路選択の魅力として高く評価されている。
- ・ 半導体教育において、県の施設や地域産業界をリソースとして活用し、地域のまちづくり施策と一体的に取り組む姿勢が、高校と地域が支え合う理想的な関係づくりに繋がっている。

#### **佐々木 一人 遠野市教育委員会 教育長**

- ・ 地区割と通学区域の乖離を考慮した学びの環境整備が必要であり、子どもたちが笑顔で過ごせる学校生活を実現したい。
- ・ 広域な遠野市においては通学距離が大きな課題であり、身近に学びの場があることが教育の機会均等に繋がる。
- ・ 市長部局、教育委員会、高校が連携して高校の魅力化に取り組んでいる。特に、遠野緑峰高校では地域人材を活用した農業教育を展開しており、地域にとって重要である。
- ・ 授業料の無償化により公私立間の志願者の流れが大きく変わることが予想される。県立高校の在り方については、今後が正念場であり、魅力ある学校づくりを教育委員会としても応援したい。

#### **柿崎 肇 西和賀町教育委員会 教育長**

- ・ 長期ビジョンの策定に用いられたデータが豊富であり、特に「小規模校で学びたい」と答えた生徒が40%にのぼる点は、生徒のニーズを把握するうえで重要である。
- ・ 40人定員が適切かどうかについて再検討の余地があり、子どもたちの学びの多様性や情熱に応じて、例えば30人定員といった学級編制を検討する必要があるのではないかと。

#### **横手 勝美 花巻市校長会（花巻市立花巻中学校長）**

- ・ 少子化の影響で志願倍率が1倍を超えるのは難しい状況である。別室登校の生徒も受け入れるなどそれぞれ学校の特色を活かした教育を行っているので、学校の存続を前向きに検討して欲しい。
- ・ 地域から「仕事の厳しさや大変さも教えて欲しい」という声があり、若者の早期退職が増える中、職業体験などで現実の厳しさにも触れる教育が必要であると感じている。

#### **堀村 克利 遠野市校長会（遠野市立遠野中学校長）**

- ・ 人口減少に伴い学校の在り方の検討が必要と感じている。広域での配置に関しては具体的なプランの提示が次の一步につながるのではないかと。
- ・ 遠野高校では、地元企業や台湾との連携など、特色ある魅力化の取組を実施しており、中学生や保護者にも分かりやすく伝わる工夫が必要とされる。
- ・ 大槌高校のようなモデルを参考に、人材・資金・大学や専門機関との連携など、魅力化に向けた体制整備を進めてほしい。
- ・ 宮守地区の一部生徒が花巻学区に含まれているように、実態に即した学区の特例について検討が必要であり、柔軟な対応が望まれる。

### **加藤 建一 北上市校長会（北上市立南中学校長）**

- ・ 募集定員の見直しを求める声があり、高校授業料無償化を踏まえた公立、私立間の協議が必要ではないか。定員割れの中で学習、進路指導に苦慮しており、都市部と小規模地域で同じ40人学級であることへの公平性にも疑問が出ている。
- ・ 地元企業のニーズに応じた学科改編（黒沢尻工業高校の半導体関連）により、特色ある教育を展開し、進路指導が行いやすくなることが期待される。
- ・ 特別支援学級在籍生徒の多くが普通高校を希望しているものの、入学後の指導や就職等の進路への対応に課題があるため、より丁寧な配慮が求められている。
- ・ 不登校・不適応の生徒の進路確保が課題であり、小規模校による温かい対応や学びの多様性へのニーズが高まっている。チャレンジスクールの公立での拡充が望まれている。

### **上田 東一 花巻市長**

- ・ 医学コースには特別の授業等はあるのか。
- ・ 医大ごとに入試科目や傾向が異なるため、個別対応は現実的に難しいのではないかと。
- ・ 医系志望でも、まずは「全体的な学力向上」が重要だと考える。

### **西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 単位制の導入により、学校が独自に教材を作成し、生徒の志望する医大の入試に合わせた「学校設定科目」として特化したカリキュラムを編成することが可能になる。これは学習指導要領にとられない内容である。また、教員加算を活用して、複数科目を設置することを想定している。
- ・ 現在は教育課程を作成中の段階で、詳細は今後具体化していく予定である。

### **上田 東一 花巻市長**

- ・ 「ブロック」と「学区」を分ける理由がやはり不明確で、説明不足だと感じている。
- ・ 医学部進学希望者への教育が、特定大学の受験対策に偏ることには懸念がある。
- ・ 医大や東北大学の医師からも「岩手県の学力向上施策が足りない」との指摘を受けており、医師不足の背景には、進学後に県外へ流出してしまう現実がある。
- ・ 受験対応の改正ではなく、抜本的に学力を底上げする仕組みが必要である。
- ・ 首都圏の中高一貫教育校が大学進学で成果を上げており、岩手でも中高一貫教育の導入を検討すべき。

### **北川 祥樹 遠野市PTA連合会 会長**

- ・ 子どもたちが「行きたい」と思えるような学校づくりを行って欲しい。普通科にしか学区適応が無いことは子どもたちも知らない可能性が高いので、より丁寧で分かりやすい情報提供が必要である。

### **鎌田 優見 花巻市PTA連合会 会長**

- ・ 中高一貫教育校の設置は面白いと思う。地元から生徒が流れてしまう懸念はあるが、定員の見直しにより対応は可能ではないかと考える。
- ・ 子どもは大人目線での「良い学校」がどのように良いのかわからないため、体験や交流を通じて良さに気づけるような取組や、高校と中学校で交流の場を持つといった連携が必要ではないかと。

### **堀村 克利 遠野市校長会（遠野市立遠野中学校長）**

- ・ 40人定員について、例えば35人定員への変更については県で議題になっているのか。
- ・ 定員の特例的な措置を地域にあわせて実施できないか検討頂きたい。

### **西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 現在、高校の1学級40人定員は国の標準法に基づいており、国の財政措置もこの基準に基づいている。県では、広域な地理的条件を踏まえ、35人や30人でも編成できるよう国に要望を出しているが、実現には至っていない。
- ・ 他県では独自予算によって少人数学級を実現している例もあり、岩手県でも中山間地や過疎地域の高校を対象とした特例的な対応について必要に応じて検討していく。

### **酒本 涼子 サロン・ド・愛**

- ・ 「地域みらい留学」への参加を通じて、西和賀町のような小さな地域でも、全国から生徒を呼び込むチャンスがあることを実感している。生徒の興味を引く要素（例：温泉）などが大切。
- ・ 最近の中高生は「何になりたいか」よりも「どこで3年間を過ごしたいか」という視点で学校を選ぶ傾向が強まっており、全国的に生徒の価値観が変化している。
- ・ 岩手県としても、こうした「いわて留学」へのニーズや意識の変化を踏まえ、全県的に取組を強化していただきたい。

